

第 587 回琵琶湖海区漁業調整委員会結果概要

◎第 587 回琵琶湖海区漁業調整委員会を開催しましたので、概要をお知らせします。

開催日時 : 令和 3 年 11 月 9 日 (水) 14:00 ~ 15:00

開催場所 : 一社) 環びわ湖大学・地域コンソーシアム 会議室

出席者 : 委員 9 名、水産課 8 名、水産試験場 1 名、事務局 5 名

(1) 諮問事項

1. 漁業許可の制限措置および申請期間ならびに許可の基準について

- ・ 水産課より、沖すくい網漁業および追さで網漁業の漁業許可の切り替えにあたり、制限措置、申請期間および許可の基準の内容について諮問しました。
- ・ 追さで網漁業の操業区域について委員から質問がありました。これに対し水産課から、追さで網は従来、操業区域の調整が図られてきたことから、現に当該漁業を営む者が引き続き同じ操業区域で操業できるよう操業区域を定めた説明がありました。
- ・ 各漁業の許可の基準について、漁獲実績の反映を検討するよう委員から要望がありました。これに対して水産課から、今回の許可の基準には含められないが、漁業法改正に伴う漁獲報告の義務化を周知し、指導していくこと、および今後の許可の基準への反映を慎重に検討するという方針を示しました。

2. 許可の有効期間について

- ・ えびたつべ、よし巻、かご、竹筒、延縄、引縄釣の各漁業は許可の満了日を統一せず随時申請を受け付けてきました。しかしこれらの漁業では許可の有効期間の満了日が各個人ごとに異なるため、漁業者が更新を失念したり漁協内での管理指導や代理申請等の事務手続きが煩雑化したりするおそれがあります。また、漁業許可は禁止されている漁法について漁業経営の向上を図るために解除しているものです。そのため、資源の保護培養および漁業調整の観点から、許可定数、許可の制限措置および条件の見直しを行いやすくするため、これまで随時許可としてきた漁業許可の有効期間満了日を統一し、満了次第、一斉切り替えを行うこととし、それに伴い、今後の各随時許可の有効期間が規則で定められた 5 年より短くなることについて、水産課から委員会に諮問がありました。
- ・ 委員からは質問および意見がなかったため、漁業許可の有効期間短縮は異議なく同意され、今後の許可に適用されることとなりました。

(2) 報告事項

1. アユ資源の状況について

- ・ 水産試験場が本年 8 月下旬から 11 月上旬にかけて行った産卵調査は、合計産卵数が 156.2 億粒となり、平年比の 221.9%と大きく増加しました。8 月中旬の降雨、親魚量の多さ、良好な河川環境によるものとされました。また、ヒウオ生息状況調査は 10 月から 1 か月間かけて第 2 次調査まで完了し、第 2 次調査時点で 431 尾/網となり、平年値の 6.4 倍となりました。ヒウオの平均体重も第

1次から第2次調査の間で大きく増加しており、生育状態は良好でした。

- ・過去に産卵数が多いにもかかわらずエリで獲れないという状況があったこと、および琵琶湖の水位の低下が見られることを不安視する委員の意見がありました。水産試験場は過去の資料の調査と今後の河川の調査を続けるとしました。

2. 活アユの輸送・集荷時の塩水浴について

- ・水産試験場より、活アユの輸送・集荷時の生残率低下および魚病の予防に0.6%塩水浴が最適であるという調査報告がありました。
- ・魚病リスクの低下の根拠が資料に明記されていないことについて委員から指摘があり、水産試験場からはスレ症治療および魚体内の塩分濃度維持への効果から間接的に想定されるものである旨の補足がありました。

(3) その他

- ・琵琶湖総合開発と同時期に設置された県内の漁港施設が老朽化しつつあるという問題について、委員から「市の予算がないため水産課から掛け合って関連組織から修繕予算を捻出できないか」との要望がありました。水産課は、基本的に港を管理する市との連携を図っていこうと検討している状態だと回答しました。
- ・遊漁者と漁業者の採捕区域を巡るトラブルで漁協に苦情があるという問題が委員から共有されました。わざと遊漁者に接近する漁業者がいるという報告の一方で、遊漁者側が避けるべきだという意見もありました。遊漁者側が操業中の漁船の動きをよく知らずに航行することがトラブルの原因ではないかとされ、水産課は引き続き、ホームページやパンフレットで遊漁者のマナーを周知していくこととしました。
- ・琵琶湖の水位低下について、県の今後の対応について委員から質問がありました。水産課から、県ではマイナス65センチから連絡調整会議が設けられるとしたうえで、これに先立って各漁協あてに水位低下の影響について照会をかけ、回答待ちである旨を説明しました。